

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作り変える時にスタッフに意見を聞き作成した。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・職員室に貼っている。又、朝の申し送り前に唱和している。理念に添ったケアプランを作成するようにしている。		食事、買い物等の個別対応を行っている。接遇目標に理念を取り入れ毎朝唱和している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、面会時等に理念に添ったケアを行う事を説明し、家族会等を通し交流を深めている。		月1回の家族へのめぐみ便りや、年4回の地域へ配るホーム便りに理念を記載している。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年4回、地域用にホーム便りを作成し配布している。出勤時、散歩時等挨拶をしている。		玄関前には季節の花を植え、手作りのポストを置いている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の文化祭に作品を出品し見学に行ったり、身障者学園の文化祭を見学に行ったりしている。		隣接する老健センターと合同であじさい祭りをを行い、フリーマーケット・地域業者の食バザーを行った。小学校・幼稚園にチラシを配り、地域スーパー・最寄駅・病院・幼稚園・小中学校にポスターを貼った。年1回老健と合同で作品展も開催している。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への支援は出来ていない。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、介護会議で話し合い改善している。		ホーム便りを年に4回地域に配布している。地域の行事にも参加している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会と同時に行い意見交換をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センター職員・民生委員・ボランティア 家族の代表がメンバーで開催している。		今年度より市職員もメンバーにはなれないが、出席しても良いとの事で、平日に開催する事にした。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	老健との合同勉強会で研修を行っている。家族には入居時資料を渡し説明している。その都度必要時に相談を受けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添ったケアを行っている為、虐待はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだ後解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・本人と少しでも多く関わりたいを持って、希望を聞く様になっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、苦情相談窓口の説明を口頭・文章で行っている。日々の生活の中で、コミュニケーションを多く取るようにし、苦情・不満があればなるべく早く対応出来る様にしている。		玄関に意見箱を設置している。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月めぐみ便りに、個々の担当者が手紙を書き送っている。面会時や電話でも報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情相談窓口の説明を、口頭・文章で行っている。無記名アンケートを行い家族会で、改善の報告をしている。		定期的に、個々のケアカンファレンスを行い、希望・不満・苦情を聞く様にしている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にリーダー会議を行い、職員の意見を聞く機会を設け、検討し運営に反映させるよう努めている。また、毎月末の全職員参加の会議でも話し合いをしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の方それぞれに担当の職員がついておりご家族との話し合いにはその職員が当たるよう勤務調整している。無理な場合は他の職員でも対応できるようにしている。担当職員が入居者の方の個別対応につけるよう勤務表を組んでいる。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は最小限にとどめている。新入職員は十分に慣れてから夜勤、宿直に入るようにしている。		

グループホーム めぐみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集・採用にあたっては性別、年齢などで決めてはいない。職員にはなるべくそれぞれの得意分野で係りを担当してもらい、生き生きと仕事をしてもらえるようにしている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>めぐみの理念に基づいて入居者の方に思いやりを持って接する事ができるよう 朝の申し送り時に理念を唱和している</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加できるよう 勤務調整を図っている。隣接する老人保健施設との合同勉強会も年3回行っており ホームからも事例の発表をしている。必要と思われる事柄については月末の会議の中で話し合うようにしている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に登録し、ブロックごとの交流、研修、勉強会に参加し、他のホームの職員と顔なじみの関係を作るよう努めている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが溜まらぬよう 各々の休み希望にできるだけ副えるよう勤務表を組むようにしている。年3回懇親会を行っている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況は勤務表、出勤簿で把握している。各自担当の係りがあり、責任を持ってホームの運営を担っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、本人・家族と共にホームに来てもらい、ホームの案内・説明を行う。入居後、担当者を決め顔なじみのスタッフと付き合う事で、安心して打ち解けてもらえる様に、コミュニケーションを多く取る様に努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接で家族の状況を理解出来る様に、話やすい雰囲気作りをしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族の希望を受け止め、サービスを実施出来る様努めている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームに来てもらい馴染んでもらったり、入居後はこまめに面会に来てもらう様にしている。又、本人が落ち着かれる様な馴染みの物を持参してもらっている。</p>	<p>本人が慣れるまで家族に泊ってもらった事もある。自宅で使っていた布団などを持って来てもらったり、仏壇を持ってきている方もいる</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をして共に時間を過ごしながら、時の流れを共有出来る様にしている。</p>	<p>料理の味付け、ぎょうざ包み、梅干漬け、白菜漬け、花の水遣り等を一緒にしている</p>

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい関係を築いている	面会時や電話でのコミュニケーションを多くし、家族会や行事に参加してもらい様声をかけている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族の思いを聞き、面会時等に支援出来る様に心がけている。		家族・本人が満足出来る様にコミュニケーションを多く取っていききたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	本人が希望する場所にドライブに行ったりしている。キーパーソン以外の家族にも行事参加の声かけをしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	趣味や話が合う方同士のコミュニケーションが取り易い様、食道のテーブルの座席を考慮している。仲の良い人同士居室訪問されている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合、面会に行ったり 家族と連絡を取り相談にのるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のコミュニケーションで希望を汲み取る様にしている。又、カンファレンス等でスタッフ間の情報交換をしている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族との面接やサマリ等で情報を得ている。本人とのコミュニケーションでも行っている。</p>	<p>自宅で使っていた寝具類や仏壇等を持って来てもらっている。茶碗・湯のみ等は個人用</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日個人記録をし、朝・夕申し送りを行っている。大事なことは申し送りノートに記入し情報を共有している。</p>	<p>毎月ユニットカンファレンスを行い情報交換をしている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族とケアカンファレンスを行い、本人とは日々のコミュニケーションを通し思いを汲み取っている。スタッフ間はユニットカンファレンスや毎日の申し送り前後で話合っている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直し作成している。又、体調の変化や区分変更があった場合はその都度見直し作成している。</p>	

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介助内容等を個別に記録し、どのスタッフが見てもどの様な対応をしたのか分かるようにしている。		重要な事は申し送りノートに記入し、呼んだ人はサインをしている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外食や、買い物等の個別対応を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回消防訓練(消火・避難)を行っている。		今年度より防災訓練(地震・台風)を行う
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の希望で通院介助サービスの事業者を利用されている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診してもらっている。家族へ状態の報告を行っている。心身の状態の変化のあった時は電話・手紙等で医師へ連絡している。		急変事は、スタッフ同行で受診している。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者で認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居される前からの主治医の為認知症に詳しい医師とは限らない。状態変化時には、電話・手紙等で相談し必要に応じて専門医の紹介をしてもらっている。		現在、定期受診は家族がされているが、今後はスタッフが同行する様にしていきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で准看護師が勤務している。又、隣接の老健の看護師と連携を取り相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるようまた、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報を共有し早期退院出来る様にしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは話し合いが出来ていると思う 主治医がばらばらな為出来ていない主治医もある。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今までは終末期の利用者はいなかった。		今後に備えて検討準備をしていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	主治医の紹介書や介護添書等で本人の心身の情報提供を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合った声かけを行っている。入居時個人情報保護法について説明し誓約書に押印してもらい、それに基づき実施している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合った言葉かけを行い、コミュニケーションの中でその人の希望を見つけ出す様にし、受容の体制を取る様にしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの声かけに拒否された時は、時間をおき再度声かけをしている。可能な限り個人対応が出来る様にしている。		個人対応として、外食や買い物等に1対1で外出している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	隣接の老健で週1回理美容があり、殆んどの方が利用されている。		希望によりカラー・パーマ・カット・顔剃り等をしてもらっている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いたり季節の食材をメニューに取り入れる様にしている。		そうめんちり(郷土食)を行事の折に作ったりひな祭りにちらし寿等を作ったりしている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的ではないが行事の時や特別な日(誕生日)には、利用者が好む物を出す様にしている。		誕生日にデコレーションケーキを買って来ている。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせてケアを行うようにしている。排泄チェックシートを利用する事もある。		入居時、紙パンツとパット使用であった方が、現在、昼は布パンツ、夜は紙パンツで汚染が無い為、今後は一日中布パンツに変えて行く予定である。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴希望される方が多く以前トラブルになった為、現在は順番を決めている。その日の状況に応じ変更している。		受診・外出に合わせている。仲の良い人同士二人で入浴されることもある。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室の為、遅くまでテレビを見ていたり、夕食後直ぐに臥床されたりしている。		夕食の配茶は、ほう茶にしている。主治医と相談し睡眠薬はなるべく使用しないようにしている。
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は特別に決めず、利用者の能力に応じ気晴らし程度にしている。		居室で布団の衾つけを一人でされる。食堂の掃き掃除をされる。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は所持してもらっている。管理出来ない方は買い物時に職員が手渡し、自分でお金を支払ってもらっているようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間のある限り、散歩・ドライブ等外に出て気分転換してもらえる様心がけている。		個別対応で外食・買い物等を出来る限り多くしている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	年2回昼食を兼ねたバスハイクを行っている。個別対応時に希望される所へ行く様に心がけている。		バスハイクでは、唐津城・曲淵ダム・花博・福岡タワー等に行った。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり自由に電話がかけられる様になっている。自分でかけられない方が希望されたら、スタッフがかけて受話器を渡している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶し、気軽に声かけしてもらえる様にしている。面開時は居室や食堂で過ごしてもらい、御茶やおやつ等を出している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない様にしているが、一人だけベットからの転落防止の為柵を片側2本使用している。否定的言動はしない様、日頃よりスタッフ間で話合っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が駐車場であり、道路も車の通りが多い為玄関は施錠している。		個室の鍵は本人の自由になっている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はレクリエーション、茶話会の声かけをし、所在確認をし安全に過ごせているか見守りしている。夜間は巡視をこまめに行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針・ハサミ等、様子を見ながら利用者の判断能力によって、時自己管理してもらっている。		自分で布団の襟付けをされている方もいる。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・カンファレンスを通しあらゆる面での事故対策を行い、個人に対する対策も話合っている。		事故・火災・地震等のマニュアルを作成している。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。		今後定期的に訓練を行って行きたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、2ヶ月に1回非難訓練を行っている。		災害食の蓄えをしている。IH調理器の為、停電に備えてカセットコンロを用意している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、又は状態が変化した時家族に報告・相談をしている。対応策はカンファレンス等で話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い状態をカルテに記入し、朝・夕で申し送りをしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書をカルテに綴っている。利用者の状態に応じた、服薬介助を行っている。		錠剤が飲めない方には、粉にして出してもらっている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便有無の記録を記入し、便秘時には利用者に応じた処置を行っている。		冷たい牛乳を飲んでもらったり、腹部のマッサージを行ったりする。こまめな水分補給、散歩や運動をしてもらう
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕食後に口腔ケアの声かけ・介助を行っている。		義歯・歯ブラシ・コップ等を定期的に洗浄している。

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士にメニューを作成してもらい、毎月職員がチェックしている。毎食摂取量のチェックをし、記録している。定期的な水分補給以外にも希望時に水分を取ってもらっている。		嫌いな物は代替食にしている。季節の食材を取り入れる様にしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防の為、利用者は朝・夕外出後にうがいと手洗いをしている。面会者にも手洗いとうがいをしてもらっている。職員も手洗い・うがいを徹底している。汚物を取り扱う時は、手袋を使用している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は食材別(肉・魚・野菜)に分けて使用している。食器乾燥機を使用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチや手作りポストを置き、季節の花を植えている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室に暖簾をかけている。トイレは目の高さに目印を付けている。食堂に、習字 絵を貼っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りこなれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・食堂に長椅子を置き、利用者同士話せる様にしている。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具等は、自宅で使用されていた物を持ってきてもらっている。		仏壇を持ってきている人もいる。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕で換気をする様にしている。各居室にエアコンが有りその方に応じた温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室には、手すりを設けている。車椅子使用の為、一部のトイレのドアをカーテンに変えた。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に合った声かけを行い、日常生活の中で出来る事をしてもらっている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで活動できるように活かしている	ベランダに花や野菜を植え、水遣い等をしてもらっている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったり過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム めぐみ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くない
100	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の 2/3 くらいが
		職員の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の 2/3 くらいが
		家族等の 1/3 くらいが
		ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・手洗い・うがいを利用者・面会者・職員に徹底している為、インフルエンザ感染者はいなかった。(うがいは紅茶を使用)
- ・2ヶ月に1回防災訓練をしている。
- ・出来る限り個別対応を多くしている。
- ・誕生日にその方の好みの物(デコレーションケーキ・饅頭)を用意し祝っている。
- ・家族へ無記名アンケートを行い、結果を家族会や、運営推進会議で報告している。